

オープン市場短信 (2006年10月)

2006.10.06

9月のCP市場動向

9月のCP新規発行額は、事業法人の中間期末の有利子負債圧縮目的による期落ち到来分継続見送りから、期落ち(約4兆7千億円)を下回り4兆4,600億円程度の発行に止まった(除く、ABCP・金融機関発行CP)。

9月末の発行残高は、証券会社・ABCPの発行が増加したため19兆5,219億円と前月(19兆5,387億円)比ほぼ横這いであった。

このうち事業法人発行のCPは、前年同月比約1兆2,200億円の大幅増加となっている。これは、景気回復によって企業活動が活発化し事業法人の資金調達ニーズが強まっているほか、CPによる資金調達は他の調達方法に比べ割安感が強く利便性も高いとの認識が定着してきている結果と思われる。証券会社によるCP発行も、インターバンク市場でのターム物調達に比べて容易との理由で増加傾向にある。CPについては、現在の金融環境下で発行企業と投資家層の双方で裾野の拡大が進んでおり、例年発行残高の落ち込む中間決算期末でも、高水準の市場残高がキープされる状況になっている。

発行レートは、月中を通して概ね弱含み横這いで推移した。期末要因による上昇場面も一時見られたが、投資家・ディーラーの運用ニーズが勝る結果となった。特に期末の大量発行日には、運用資金に余裕の生じた投資家・ディーラーが積極的に購入に動いたため、レートは殆どの銘柄・タームで低下した。

銘柄別の発行レート

9月のCP取引発行レートレンジ

単位 %

格付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
格付 a-1+(オペ適格)	0.34 ~ 0.382%	0.375 ~ 0.379%	0.362 ~ 0.375%
格付 a-1(オペ適格)	0.35 ~ 0.450%	0.385 ~ 0.438%	0.400 ~ 0.439%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.33 ~ 0.360%	0.355 ~ 0.365%	0.345 ~ 0.389%
格付 a-1(リース銘柄)	0.36 ~ 0.460%	0.39 ~ 0.480%	0.400 ~ 0.500%
格付 a-2	0.41 ~ 0.520%	0.42 ~ ケ 0.55%	0.450 ~ ケ 0.80%

CP オペ

CP現先オペは、7日・22日と月中2回計6,006億円の期日が到来したが、7日期日分は同日スタートでロールされ(3日オフア)、22日期日分については24日スタートで新規オペ(22日オフア)が実行された。応募総額はいずれも買い入れ予定額を上回ったが、足元現先レート水準での落ち着いた落札結果となった。足切レートは、7日スタート分が0.32%、24日スタート分は0.29%。平均落札レートは、7日スタート分が0.329%、24日スタート分は0.312%であった。

9月末のCPオペ残高

CP 現先オペ 6,000 億円

(短期社債・保証付短期外債 5,895 億円/資産担保短期債券 105 億円)

ABCP

9月末のABCPの発行残高は、中間期末要因から約4兆5,074億円と、前月比約3,612億円増加した。

短期社債残高

6日、証券保管振替機構から9月末の短期社債の発行残高が公表された。それによると、月末残高は19兆5,219.32億円(前月比約167.70億円減)と微減に止まった。中間期末で事業法人の発行残高の大幅減少が予想されていたが、結果として事業法人CPは前年比30%以上増加した。例年通り有利子負債圧縮の動きはみられたが、それ以上に資金調達を進める企業が増加したということであろう。9月末時点の発行登録企業数は424社で、既発行企業は381社であった。

現先市場

月中現先レートは、ほぼ横這いで推移しS/Nレートは0.30~0.35%のレンジでの出会いとなった。9月末越え物は、レポGCレートの上昇を受けて0.36~0.40%台前半での出会いであった。

10月のCP市場動向

10月中のCP償還額は、約4兆1,600億円と前年同月(約2兆8千億円)を大幅に上回っている(除く金融機関発行CP・ABCP)。発行期間の短期化が進み、ショートターム物のロールが中心となっているため、毎月の償還額が増加している。

新規発行は、中間期末対策で継続案件を見送った事業法人の復活発行も見込まれ、期落ちよりも増加するだろう。

発行レートは、前月同様投資家やディーラーの運用ニーズが強いことからレート低下が進むと思われる。短国レート水準にどれだけ近づくかといった動きになるろう。

CPオペ

現先オペは、5日と24日に月中2回の期日が到来する。5日期日分についてはロールが見送られ、翌6日に実施された。応札は8月3日に実施されたオペ以来となる多額の玉が集まり、市場予想よりも強めの落札結果となった。ディーラーの中にはCP現先オペが今後も継続することを望む声も多い。応札玉の手持ちも相応にあることから、今後も月2回ペースで実施されるようになるのではないかと見られる。

現先市場

月中現先レートは、S/N物で0.28~0.33%の出会いを予想する。ターム物は0.30~0.35%の水準の出会いであろう。

(松倉)

参考資料

業種別残高内訳

			単位:億円
業種	9月末残高	8月末残高	増減
事業法人	48,939	56,804	7,865
その他金融	66,191	66,469	278
金融機関	35,015	30,652	4,363
(銀行等	15,416	15,221	195)
(証券	19,299	15,431	3,868)
ABCP	45,074	41,462	3,612
計	195,219	195,387	168

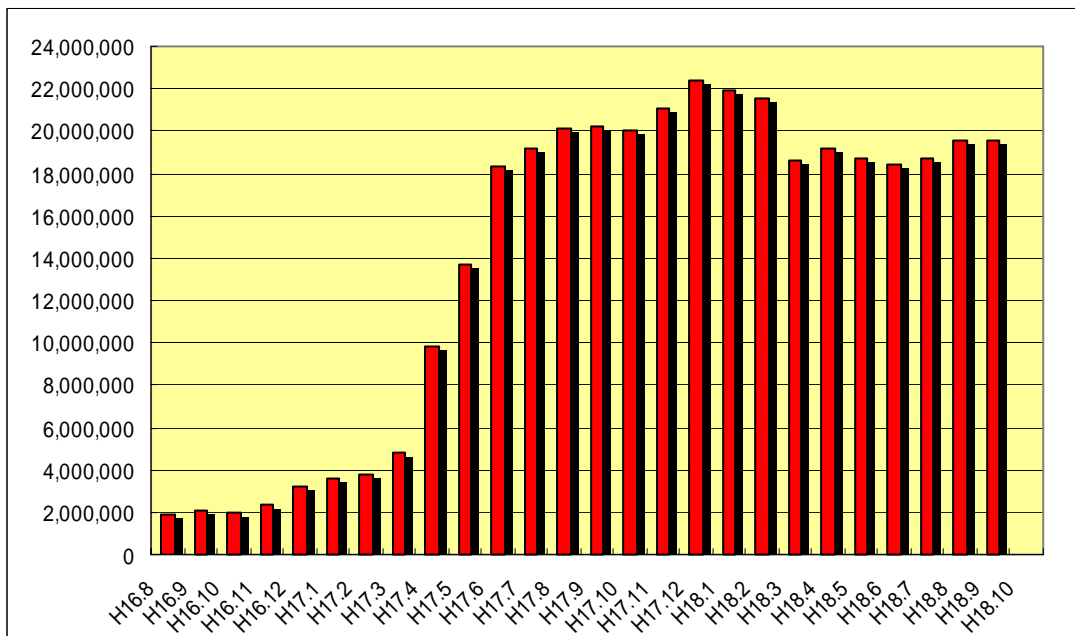
短期社債月末残高 (H16年8月~H18年9月)

9月末

発行残高 : 19兆5,219.32億円

発行登録企業 : 424社 (発行実績あり 381社)

(単位:百万円)



9 月末発行残高ベスト 20

(単位:百万円)

	発行企業名	9 月末残高
1	オリックス	822,800
2	フォレスト・コーポレーション	787,700
3	ダイヤモンドリース	546,600
4	日産自動車	490,000
5	野村証券	489,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	462,300
7	みずほ証券	395,100
8	ミレミアム・アセット・ファンディング・コーポレーション	382,320
9	住友信託銀行	375,100
10	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	372,200
11	みずほコーポレート銀行	343,800
12	新日本石油	340,000
13	住商リース	335,000
14	UFJ セントラルリース	321,500
15	東京リース	321,200
16	興銀リース	298,600
17	三菱東京 UFJ 銀行	294,600
18	UFJ ニコス	282,000
19	大和証券 SMBC	272,710
20	モルガンスタンレー証券	270,200

参考出所 (株)証券保管振替機構